

わたしたちは、予防医学を通じて  
人々の「生涯健康」、「健康寿命の延  
伸」をめざし、健康と福祉の向上に  
努めることにより、社会に貢献し  
てまいります。

# よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

## 今月の主な紙面

(1面) ●年頭に寄せて

(2・3面(見開き))

- 連載 ホルモンからみた思春期のこころと体(10)
- 平成29年度健康づくり懇話会総会  
「働く人の健康増進」めぐり特別講演や情報交換
- 新刊紹介  
『「はたらく」を支える! 職場×発達障害』  
『クラッシャー上司 平気で部下を追い詰める人たち』

(4面) ●東京都大腸がん検診普及啓発事業

- Tokyo健康ウオーク2017に協力一本会
- 「女性ヘルスケアからみた乳癌検診」をテーマに  
第27回日本乳癌検診学会学術総会
- 連載 ALCAだより(20)



東京都医師会 会長

尾崎 治夫



新年、明けましておめでと  
うございます。  
引き続き東京都予防医学協  
会の皆さんとは、密接な連携  
の下、東京都の健康事業をは  
じめとした予防医療を展開し  
てまいりたいと考えておりま  
すので、よろしくお願いた  
します。

皆さんは、ヘルスリテラ  
シーという言葉をご存知で  
しょうか。その定義をみると  
「健康情報を入手し、理解し、  
評価し、活用するための知  
識、意欲、能力であり、それ  
によって、日常生活における  
ヘルスケア、疾病予防、ヘル  
スプロモーションについて判  
断したり意思決定をしたりし  
て、生涯を通じて生活の質を  
維持・向上させることができ  
るもの」とあります。ある調査  
では、日本人のヘルスリテラ  
シーは、EU諸国に比べてか  
なり低いといわれています。

日本人は、テレビや新聞な  
どのマスコミから流れる情報  
を、正しい情報かどうかを見  
極めることなく信用しやすい  
という特徴がある一方、われ  
われ医療に携わる人間も予防  
のための健康教育に対して真  
剣に取り組んできたとはいえ  
ない状況があります。

今問題になっている受動  
喫煙の問題についても、そ  
に「吸う人も吸わない人も仲  
の害はかなりの深刻で、年間  
1万5000人の方が命を落  
してしまっています。政治家、行  
政、マスコミをはじめ多くの  
は4000人を下回っている  
る。タバコの煙から出る有  
害物質はPM2.5といわれ  
る非常に細かい粒子が主体  
で、どんなに分煙を厳しくし  
て、高性能の換気装置を設  
置したとしても容易にすり抜  
けて拡散してしまいます。した  
がって、屋内を完全禁煙にす  
るしか受動喫煙の害は防げな  
いという多くのエビデンスに  
基づき、すでに49カ国で飲食  
店を含む屋内禁煙の厳しい措  
置がとられています。

これらのことにもかかわら  
ず、わが国では「受動喫煙の  
害から国民を守ることは大  
切であるが、喫煙者にも配  
慮を」といった議論に、いつ  
の間にかすり換えられ、さら  
に「吸う人も吸わない人も仲  
良く」といった論調になって  
しまっています。政治家、行  
政、マスコミをはじめ多くの  
ステークホルダーの方々のヘ  
ルスリテラシーの欠如が、こ  
うした事態を招いているもの  
と思います。

東京都医師会では、がん教  
育が始まったこともあり、こ  
うした状況を打破するため  
児童生徒の健康教育に学校医  
活動を通じて本腰を入れて取  
り組むことにしました。

小中高の学校教育を終えた  
段階で、多くの方がすっかり  
としたヘルスリテラシーを身  
に付け、さらに成人保健の中  
で、東京都予防医学協会の皆  
さんが取り組んでいる健康を  
はじめとする諸事業に主体的  
に関わっていただけるような都  
民を増やすことで、元氣な人  
で溢れる東京にしていきたい  
と考えています。

# 年頭に 寄せて

2018(平成30)年の新  
春を迎え、心よりお喜びを申  
上げます。

東京都予防医学協会の皆様  
には日頃より東京都の福祉保  
健医療行政に格段のご理解と  
ご協力を賜り、厚くお礼を申  
上げます。また昨年は、創  
立50周年を迎えられ、長い年  
月にわたり予防医学を通じて  
人々の健康と福祉の向上に努  
め、社会に貢献してこられた  
関係者の皆様のご功績に深く  
敬意を表します。

今年、東京都の保健医療  
計画、高齢者保健福祉計画、  
がん対策推進計画、医療費適  
正化計画などの保健医療福祉  
施策を進めるための柱となる

各計画の改定を行います。  
また、国民健康保険の制度  
改革により、都道府県  
は、本年4月から区市  
町村と共に国民健康保  
険の保険者となり、財  
政運営の責任主体とし  
て中心的な役割を担う  
こととなります。

高齢化が急速に進み  
医療需要の増加が予想  
される中、東京都は国  
民皆保険制度を維持し  
つつ、「東京都地域医  
療構想」で掲げた「誰  
もが質の高い医療を受  
けられ、安心して暮らせる  
東京」の実現に向け、各計画  
に基づいて保健、医療、福祉



東京都福祉保健局 技監  
菅井 敬子

サービスの充実に積極的に取  
り組んでいきます。

具体的には、医療機関の病  
床の機能分化を進めながら高  
度急性期から在宅医療までの  
実、介護サービスの基盤整備  
などに取り組めます。また、  
生活習慣病が中心となる都民  
の疾病構造を踏まえ、ライフ  
ステージを通じた健康づく

り、健康増進の観点から、受動喫  
煙防止対策の一層の推進に向  
かっています。

また、東京大会の  
ホストシティの立場と都民の  
健康増進の観点から、受動喫  
煙防止対策の一層の推進に向  
かっています。

切れない医療連携、地  
域包括ケアシステムにおけ  
る「治し、支える医療」の充  
共、高齢者のフレイル予防  
や認知症対策、支えあう地域  
づくりなどを進めます。

一方、国内外から人や物が  
集中する東京は、感染症の急  
速な拡大、大規模な食中毒な  
どの健康危機のリス  
クが高い大都市  
です。東京2020  
オリンピック・パラ  
リンピック競技大  
会の開催を控え、多  
様な健康危機から  
都民を守るため、感  
染症対策、食品、医  
薬品や飲料水、生活  
環境の安全確保な  
どの施策を強化し  
ていきます。

今後とも、東京都の福祉保  
健医療行政にご理解、ご協力  
を賜りますようお願いいたし  
ますと共に、本年の皆様の方  
より一層のご活躍とご多幸を  
祈念いたしまして、新年のご  
挨拶いたします。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。  
おかげさまで、本会は昨年3月31日に創立50周年を迎えました。  
新たな50年に向けて、学校、職域、地域など、暮らしのさまざまな場面で  
「元気で長生き」を目指す皆さまのお手伝いを続けてまいります。  
今年もどうぞよろしくお願いたします。

公益財団法人 東京都予防医学協会 役職員一同



東京都大腸がん検診普及啓発事業

Tokyo健康ウォーク2017に協力

本会

約600人の希望者に 便潜血検査を無料で実施

大腸がんは、がんによる死亡原因では、女性の1位、男性の3位である。一方で大腸がんは、早期に発見し治療することで9割以上が治る。ことから、便潜血検査による検診を毎年受けることが重要とされている。去る12月3日、ツイズラリーを通じて大腸がんや大腸がん検診の大切さを知ってもらふことを目的とした普及啓発イベント「Tokyo健康ウォーク2017」(主催・東京都、プレイブサークル運営委員会)が、板橋区立小豆沢野球場をスタート会場に開催され、本会が便潜血検査などで協力した。

今回のイベントでは、12歳と65歳のウォーキングコースが設けられ、約2000人が参加。情緒溢れる板橋区、北区の街並みを歩きながらツイズラリーを楽しんだ。会場では、事前に申し込んだ40歳以上の希望者約600人に、便潜血検査による大腸がん検診(無料)が行われ、本会が協力した(写真)。



また、近年話題となっているCOPD(慢性閉塞性肺疾患)のリスクをチェックする肺機能検査のコーナーも設けられ、本会では毎年約4500人が亡くなっている。この20年間、大腸がんが亡くなる人が増え続けている。東京では毎年約4500人が亡くなっている。

「女性ヘルスケアからみた乳癌検診」をテーマに

第27回日本乳癌検診学会学術総会



去る11月10、11日、徳島・徳島市で第27回日本乳癌検診学会学術総会が、「女性ヘルスケアからみた乳癌検診」というテーマで開催された。今回の大会を務めた徳島大学大学院医歯薬学研究部教授の奇原稔氏が、産婦人科が専門ということもあり、「遺伝性乳がん卵巣がん症候群」について、「マンモグラフィの基礎」を講演した。日頃、乳がん検診には携わっていない婦人科医の参加も多かったことから、特別企画として「乳がん検診の必須知識」として、「マンモグラフィの基礎」を講演した。立ち見が出るほどの盛況ぶりであった。

また、マスコミなどで話題になっている「高濃度乳房」問題などに関しても熱心な意見が交わされた。(本会がん検診・診断部長 坂佳奈子)

大腸がんは検診を受けて早期に発見し、早期に治療すれば95%以上が治る病気だが、東京都の大腸がん検診受診率は約40%と、目標の50%に達していない。このウォーキングイベントを通じて、『40歳以上の人は毎年1回大腸がん検診を受けて、大腸がんで亡くなる人を減らしていく』という

北川照男 本会顧問が逝去



北川顧問は、1997年7月から2015年6月までの18年間にわたり、予防医学を通じて人々の「生涯健康」「健康寿命の延伸」を目指すと、本会理念の下、理事長として本会の事業を牽引した。とりわけ、フェルニケトンの尿症などの先天性代謝異常症のマススクリーニングにおいては、国の事業化に先駆けて調査研究に取り組みスクリーニングを指導。一人でも多くの子どもを重篤な心身障害から救うために尽力した。

また、学童糖尿病検診研究会や学童腎臓病検診研究会の発起人となり、全国の小児科専門医に呼びかけ、小児腎臓病や小児糖尿病の検診から診断、治療までの具体的なシステムづくりを力を注ぎ、日本の小児・学校検診の発展に貢献した。

人・往来

●東海大学の学生が本会で統合実習  
東海大学健康科学部看護学科では、公衆衛生看護学に関する統合実習を行っている。本会はその実習に協力し、10月11日、学生12人を受け入れた。

●産業医科大学生が本会で現場実習  
産業医科大学生では、5年生を対象に産業医学現場実習を行っている。本会はその実習に協力し、11月13、17日の5日間、学生2人を受け入れた。

お知らせ

第27回ヘルスケア研修会  
健康経営と女性の健康  
1月31日(水) 14:16時  
東京・千代田区「星陵会館」

第27回ヘルスケア研修会が1月31日に開かれる。「健康経営と女性の健康」をテーマに、荒木労働衛生コンサルタント事務所所長で医師の荒木葉子氏が講演する。司会は、健康管理コンサルタントトセタチ子氏。

参加費2000円。定員300人(当日先着順)。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

お問い合わせ・ご相談は事務局まで(予約制)

健康管理コンサルタントセンター  
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1-2  
(公財)東京都予防医学協会  
電話 03-3269-1141

個人情報取り扱いについて

日頃より、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。

本会では、「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(氏名、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。

これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理の下に運用しております。送付名簿からの削除や変更を希望される場合には、お手数ですが、右記広報室までご連絡ください。

送付先の変更・中止について

送付先の住所変更・購読中止の場合には、変更内容を本会広報室までお知らせください。



Eメール koho@yobouigaku-tokyo.jp

FAX 03-3269-7562  
電話 03-3269-1131  
でも承っております。